は生き残れますか

私たちは、いつ、どこで大きな地震が起きても不思議ではないといわれる国「日本」に暮らしています。しかし、国民一人ひとりすべてが地震に対する備えをしているのでしょうか。一つのデータを紹介しましょう。阪神・淡路大震災の被害に遭った神戸市民を対象に行われたアンケートです。それによると「備えをしていた」と答えたかたは、全体の二割にも満たなかったといいます。私たちの地震に対する防災意識は、どうやらまだまだ薄いといわなければならないようです。

そこで今回は、地震に対する備え方、また地震が起きたときの対処の仕方、地震に対する心構えなどをまとめてみました。皆さんが防災対策に取り組むきっかけにしてみてください。

地震の何が恐ろしいのか

地震・雷・火事・オヤジ…。昔から地震は、恐ろしいものの一つとして取り上げられてきました。では、地震のどんなところが恐ろしいのかを検証してみましょう。

まず、地震そのものの恐ろしさを物語るものにエネルギーの大きさがあります。なんと、原爆や水爆のエネルギーに匹敵するのです。例えば、広島型原爆のエネルギーを、地震の規模を表す単位・マグニチュード（M）に換算するとおよそM6、十メガトンの水爆のエネルギーでM8程度の大地震に相当します。この巨大なエネルギーが、一瞬にして建物が倒壊するなどの被害を及ぼすのです。

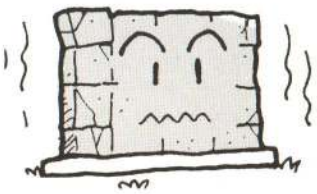
地震そのものの恐怖はもちろんですが、同じくらい恐ろしいのが地震による二次災害。その代表的な例として挙げられるのが火災です。阪神・淡路大震災でも、地震発生後、わずか十四分の間に神戸市内で六十件の火災が発生。その後も次々と火の手が上がり、広い範囲を焼き尽くしました。

二次災害で火災の次に恐ろしいのが、津波や山崩れ。津波の被害は日本海中部地震や北海道南西沖地震の際にも見られ、その恐怖はまだ記憶に新しいところです。

我が家の防災対策チェック

ブロック塀

宮城県沖地震では、ブロック塀の倒壊による被害が続出して社会問題にまでなりました。原因には、基準どおりの鉄筋が入っていなかったり、転倒防止の控壁（ひかえかべ）が入っていなかったりと、施工上の欠陥によるものが多く、施工の際は基準をしっかり守ったものにすることが大切であるといえます。



プロパンガス

地震の際、もし、プロパンガスのボンベが転倒してガスが噴出したら大変です。危険防止のために、ボンベはしっかり固定しましょう。

ボンベの設置は、直射日光が当たらない場所で水平なコンクリートの上が適しています。同時に壁にピッタリとくっつけて鎖で固定することが大切です。また、ボンベの周囲には物を置かないでください。そして外出時には元栓を閉めるよう心がけましょう。万一、室内でガスが漏れた場合には、窓や戸を全開にして換気を。その際、換気扇など電気器具のスイッチを入れると爆発する危険がありますから、絶対にやめましょう。

玄関・通路

玄関や通路にゴルフバッグや釣りざおを置きっ放しにしているご家庭はありませんか。このほか、野球のバットや自転車の空気入れなどを壁際に立てかけていると、地震で倒れて避難の際に邪魔になるばかりか、ガラスを壊すなど思わぬ被害を招くことがあります。面倒でもそのつど物置にしまうことです。また、げた箱は倒れないようにくぎや金具で壁に固定し、